



2023年度 第27期介護教員講習会  
**「コミュニケーション技術」**  
 シラバス

**近藤 卓**

健康教育学者  
 日本ウェルネススポーツ大学 教授  
 日本いのちの教育学会 理事長



**1. 講師紹介**

近藤 卓(こんどう たく)

日本ウェルネススポーツ大学 教授  
 日本いのちの教育学会 理事長  
 日本学校メンタルヘルス学会 理事

東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。

専門は健康教育学・臨床心理学。博士（学術）。

高等学校教諭（10年）の後、東海大学、山陽学園大学そして現任大学などで大学教員として研究と教育に従事するかたわら、臨床心理士として中学校・高等学校でのスクールカウンセラー（35年）など学校教育の場での経験も豊富。

**近藤卓の主な著書**

- 『ありのままの自分～大人の自己肯定感を育てる～』エイデル研究所、2023（10月予定）
- 『PTGと心の健康～傷つきを持った存在として生きるために～』金子書房、2022
- 『誰も気づかなかった子育て心理学』金子書房、2020
- 『いじめからいのちを守る』金子書房、2018
- 『子どもの心のセーフティネット』少年写真新聞社、2016
- 『乳幼児期から育む自尊感情』エイデル研究所、2015
- 『基本的自尊感情を育てるいのちの教育』金子書房、2014
- 『子どもの自尊感情をどう育てるか』ほんの森出版、2013

**近藤卓の主な著書**

- 『PTG 心的外傷後成長』金子書房、2012
- 『二十歳までに考えておきたい12のこと』大修館書店、2012
- 『自尊感情と共有体験の心理学』金子書房、2010
- 『死んだ金魚をトイレに流すな』集英社新書、2009
- 『いのちの教育の理論と実践』金子書房、2007
- 『お父さんは子どもを守れるか』日本文教出版、2007
- 『「いのち」の大切さがわかる子に』PHP研究所、2005
- 『いのちの教育—はじめる深める授業の手引き』実業之日本社、2003

## 2・1. 「コミュニケーション技術」の学びへの招待

コミュニケーションは、一般には「社会生活を営む人間の間に行われる知覚・感情・思考の伝達」（広辞苑）という理解がなされています。その際、言葉を主とした音声信号が中心となって伝達されると考えられがちですが、実際には言葉以外の聴覚、視覚、嗅覚など五感を通した信号が、重層的・有機的に関わりを持ちながら他者に伝わっていくので、その送信も受信も一筋縄ではいかないものです。

## 2・2. 「コミュニケーション技術」の学びへの招待

私たちは、さまざまなコミュニケーションを活用して暮らしています。したがって、私たちはすでに何らかのコミュニケーション技術を持っています。しかし、前述のようにそれは、まさに一筋縄ではいかない複雑な構造を持っています。そこで、これまでに臨床心理学や社会心理学等で積み重ねられてきた知見を活用して、私たち自身のコミュニケーションを考察・整理することで、日常のコミュニケーションにおける課題や問題点が浮き彫りとなってくるでしょう。

## 2・3. 「コミュニケーション技術」の学びへの招待

コミュニケーション技術を学修することによって、教員として学生とのより豊かな人間関係を築いていくとともに、職場などでの社会生活においても、また家庭や地域での日常生活においても、充実した日々を進んでいくための一助になると考えています。

## 4. 授業時間

10月21日（土） 13時30分～16時40分

11月 4日（土） 9時20分～16時40分

11月11日（土） 9時20分～16時40分

## 5. 授業実施方法

Zoomでの開講。

## 6. 担当講師とのコミュニケーション

授業時以外には、電子メールで事務局を通して行います。

## 7. メインテーマ

コミュニケーションの技術にとって基礎となる理論と方法

## 8. キーワード

コミュニケーション、人間関係、グループ、言語表現、非言語表現

## 9. 学習の目的

臨床心理学、社会心理学、教育学などの領域における様々な知見を援用しつつ、技術としてのコミュニケーションを理解し活用できる力を身に付けること。

## 10・1. 達成課題

この科目は、いわゆる座学のみで目的を達成することはできません。目的達成のためには、本来1対1でのロールプレイや、小集団でのグループ・ディスカッション、さらにはクラス全体での口頭発表など、様々な形態でのコミュニケーションの実際を、実技を通して学ぶことが必要になります。オンラインでの授業ではありますが、できる限りの工夫をして、単なる座学で終始しないようにしたいと考えています。

## 10・2. 達成課題

この授業を通して学ぶことは、一言で言えば文字通り「コミュニケーション」の「技術」です。その達成課題は二つあります。第1に技術を身につけてそれを実際に体現できること、そして第2にそれらを他者に伝えられること、つまりコミュニケーションの技術について教育することができるようになることです。

## 11・1. 授業の方法

この科目は「技術」という言葉がついていることからわかるように、単なる知識として理解することにとどまらず、それを実際に使えることを目指しています。そのために、授業ではできるだけ対話的な活動や、参加型学習や課題解決型学習などで、具体的な技術を身につけていただけるように支援します。ただ、zoomでのオンライン形式の授業のため、対面の授業に比べれば大きな制約がありますが、できる限り上記の形に近づけることを試みたいと考えています。

## 11・2. 授業の方法

そのための方策の一つとして、毎回の授業ごとにリアクション・ペーパーを提出していただきます。そこには次の3つの項目を記載します。①授業の要点、②授業の感想、③質問。次の授業時間の冒頭で、特に③の質問に答える形で、双方向型のまさにコミュニケーションを実現したいと考えています。また、2回に一度の授業後にはミニテストを実施します。これらは成績評価に直結しませんが、授業の振り返りをするとともに、授業の重要な部分を確認し理解を深め、かつ知識を定着する役割を果たすことを狙っています。

KONDO Taku, PhD

13

13

## 12. 教材・テキスト

テキストは指定のものはありません。参考図書は、授業時に適宜ご紹介いたします。

## 13. その他教材

授業では必要に応じて印刷教材を配布し活用します。 

KONDO Taku, PhD

14

14

## 14. 他の授業との関連 (準備学習の内容)

他の授業としては、「心理学」、「教育心理学」、「学生指導・カウンセリング」などが、特に関係の深い授業科目です。

## 15. 成績評価の方法・採点基準

授業時の質問などの授業への参加度の評価20%、2回に1回の頻度で全5回実施する「ミニテスト」の評価20%、授業最終日に提示するレポートの評価60%とします。

KONDO Taku, PhD

15

15

## 16・1. 毎回の学習予定と主題【第1日】

10月21日(土) 3限; コミュニケーションの大切さ

教員の自己紹介と授業の進め方。健康の概念を理解し、心理的・社会的な健康にとってコミュニケーションが大切なことを理解する。(講義+質問・意見交換)

10月22日(土) 4限; コミュニケーションとは何か

コミュニケーションの種類、コミュニケーションの過程、言語表現と非言語表現などを理解する。(講義+質問・意見交換+ミニテスト①)

KONDO Taku, PhD

16

16

## 16・2. 毎回の学習予定と主題【第2日】

11月4日（土）1限；向き合うコミュニケーション①

魅力とは何か、魅力と人間関係、魅力の形成、魅力の構造などを理解する。  
（講義とビデオ視聴＋質問・意見交換）

11月4日（土）2限；向き合うコミュニケーション②

非言語表現の役割、五感と距離、個人空間などを理解する。（講義＋質問・意見交換＋ミニテスト②）

11月4日（土）3限；並ぶコミュニケーション①

向き合う関係と並ぶ関係の意味を理解する。共同注意や間主観性の概念を理解する。（講義＋質問・意見交換）

11月4日（土）4限；並ぶコミュニケーション②

向き合う関係と並ぶ関係を対比的に理解する。（講義＋質問・意見交換＋ミニテスト③）

KONDO Taku, PhD

17

17

## 16・3. 毎回の学習予定と主題【第3日】

11月11日（土）1限；人間関係の心理学

フロイトの自我理論を基礎として、バーンの交流分析における自我分析を体験的に理解する。（講義＋エゴグラムの実施＋質問・意見交換）

11月11日（土）2限；集団の力①

集団の意味、集団形成の意味や特徴。リーダーシップにおけるPM理論を理解する。（講義＋質問・意見交換＋ミニテスト④）

11月11日（土）3限；集団の力②

同調行動（アッシュの実験）、集団心理、人間を変える力、（講義＋質問・意見交換）

11月11日（土）4限；コミュニケーションの課題

直接会話、印刷文字、電話、インターネット、SNSなどオンラインでの講義も含めて、これからの社会におけるコミュニケーションの課題と意義を議論する。（講義＋質問・意見交換＋ミニテスト⑤）

KONDO Taku, PhD

18

18

## 17. ホームワーク

テキスト（いわゆる教科書）を指定しておりませんので、事前に該当箇所を通読して疑問点を整理しておくなどの予習はできませんし、関連図書を自ら探して読んでおくなどの方法は若干敷居が高いように思われます。そこで、ホームワークとしては復習的な活動が主になります。参考図書として複数の書籍や映像資料などを授業時にご紹介いたしますので、そうした文献等を参照していただくことが、授業内容の理解を深めることに役立つことと思います。

KONDO Taku, PhD

19

19

## 18. オンライン学習での学び方

全回出席は前提となりますが、共に学ぶもの同士のコミュニケーション、教員とのコミュニケーションなどを通して、積極的に授業に参加し、学習内容を生きた技術として身につけ理解するような、積極的な姿勢が望まれます。

KONDO Taku, PhD

20

20